

化学教育 徒然草

化学グランプリ二次選考 会場校を担当して

JIKEI Mitsutoshi

寺境 光俊

秋田大学大学院理工学研究科 教授,
2022 年度・2024 年度化学グランプリ二次選考 現地実行委員長



化学グランプリ（「夢・化学-21」委員会および日本化学会主催）は、毎年7月の海の日に一次選考が実施され、成績上位者を対象に8月に実験を伴う二次選考が行われます。2022年と2024年の二次選考では、秋田大学が会場校を担当しました。

秋田大学には、1年生向けの基礎化学実験を行える100名超収容の実験室があり、試験会場として使用されました。試験問題は日本化学会の化学グランプリ小委員会が作成しますが、二次選考に関しては会場校との意見交換を踏まえて作題が行われます。秋田大学で実施された試験では、2022年に金属イオンの分析、2024年に糖類の分析がテーマとなりました。秋田はかつて鉱山県として栄え、現在でも大手企業による金属精錬やリサイクル事業が行われています。試験後には金属精錬プロセスの見学を行い、地域の特色を活かしました。また、秋田は米やお酒の産地としても知られており、「秋田らしい」問題設定ができたと感じています。

秋田大学が試験会場を務めるにあたっては、秋田県全体の化学教育を盛り上げたいという強い思いがありました。講習会の開催などを通じて、県内の高校生や教員に化学グランプリについて知ってもらうよい機会となりました。しかし、県内の化学部の活動は必ずしも活発とは言えず、また、試験問題の難易度に尻込みしてしまった生徒も少なくなかったのではないかと感じています。秋田県のような地方では、首都圏のような有名私立高校や中高一貫の進学校が少なく、生徒が実験などに触れる機会も限られていることが課題です。さらに、すべての高校教員から十分な協力や理解を得られたわけではありませんでした。今後は、博士号を持つ理科教員などが中心となり、最先端の化学や理科の楽しさを生徒に伝えていくことが求められます。

秋田で再び会場校を担当する機会があれば、個人的にはぜひ引き受けたいと考えています。一方、作題、準備など若手教員の負担の大きさが懸念されるため、この点については学会として負担軽減を検討いただければと思います。このような大きな行事を地方でやることは、地域全体の理科教育への関心を高める大きなチャンスだと感じています。

[連絡先]

010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1（勤務先）